

【現状と課題】

- 文化芸術は、豊かな人間性を育むとともに、生活に潤いをもたらし、まちに活力を与えています。
- 市民誰もが身近に文化芸術に触れ、親しむ機会の充実を図るとともに、様々な分野での活用や活動の担い手を育成することなどの取組が求められています。
- 文化芸術に触れることで、創造力や表現力が育まれ、相互理解や多様性の尊重など、豊かな人間形成につながることから、誰もがより身近に文化芸術を鑑賞し、体験できる機会の充実を図る必要があります。

【これからの施策の方向性】

- 市民誰もが身近に多様な文化芸術を鑑賞し、体験できる機会の充実を図ります。
- 様々な分野での文化芸術の活用や、活動を推進する人材を育成します。
- 文化芸術の楽しさを体験することを通して、文化芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を豊かにし、豊かな情操の育成を図ります。

【主な取組】

- 美術館において所蔵品展や企画展を開催し、収蔵品の充実などによる利用促進を図ります。
- 美術館において美術講座や美術講演会等を開催し、より多くの市民が文化芸術を体験できる機会の充実に取り組みます。
- 文化芸術による子供育成総合事業や芸術家派遣プロジェクト等を通して、児童生徒が芸術や文化を体験できる機会の充実に取り組みます。

【美術講座の様子】



【計画期間における成果指標】

指標名	指標の概要、算式等	参考値	現況値（R2）	目標値（R8）
①美術館の入館者数	—	115,750人 (R1)	78,940人	150,000人
②美術講座、美術講演会等の参加者数	—	406人 (R1)	198人	500人

①②の指標を選んだ理由

誰もが身近に文化芸術に触れ親しむ機会を充実させる必要があることから、事業の成果を表す指標として、美術館の入館者数と美術講座、美術講演会等の参加者数を設定した。

【美術館こども探検の様子】



【現状と課題】

- 本市の伝統文化、市民文化活動の一層の振興を図るため、文化団体による活動成果の発表機会の充実を図るほか、より多くの市民が鑑賞、参加できるような効果的な広報やPR活動に努めるとともに、文化施設を積極的に活用することが重要となります。
- 本市の歴史・文化資産のデータベース化のほか、ホームページやSNS等を活用した文化情報の提供・発信を行っています。
- 従来の情報発信に加え、鑑賞体験を補うオンラインコンテンツの提供など、インターネットを活用した文化の多様な魅力紹介に努め、文化芸術や伝統芸能に親しむ機会を一層拡充する必要があります。

【これからの施策の方向性】

- 市民が生涯を通じて文化芸術に触れ、楽しめるような文化施設の管理運営に努めます。
- 市内各施設の収蔵品、史跡・文化財、伝統工芸品などの貴重な歴史・文化資産について、市民の多様なニーズに対応した効果的な文化芸術情報の発信を行い、資産のすばらしさを再認識してもらうとともに、魅力のアピール、観光客誘致の宣伝素材としての活用などに努めます。

【主な取組】

- 保全計画等に基づき、美術館やふるさと考古歴史館等の文化施設の一層の機能強化に努めます。
- デジタルミュージアムやSNS等を活用し、本市の美術品や文化財等の文化情報を効果的に提供・発信します。
- 文化施設のホームページの多言語化を進めます。
- 文化施設の一層の機能強化や観光関係事業者等と連携した取組を進めます。

【かごしま文化工芸村秋まつりでの草木染めの様子】



【計画期間における成果指標】

指標名	指標の概要、算式等	参考値	現況値（R2）	目標値（R8）
① 美術館ホームページの閲覧件数	—	208,000件 (R1)	202,000件	300,000件
② 美術、工芸、文芸などの創作活動への参加、創作品の鑑賞に関心がある市民の割合	教育に関する市民意識調査	—	58.6%	70.0%

①の指標を選んだ理由

本市の美術品や文化財等の文化情報を、インターネット等を活用し、より多くの市民が鑑賞できるよう効果的に提供・発信する必要があるため、事業の成果を表す指標として、美術館ホームページの閲覧件数を設定した。

②の指標を選んだ理由

本市の美術品や伝統工芸品等のすばらしさを再認識してもらうとともに、魅力のアピール等を行う必要があるため、事業の成果を表す指標として、美術、工芸、文芸などの創作活動への参加、創作品の鑑賞に関心がある市民の割合を設定した。

【鹿児島市立美術館所蔵の絵画】

クロード・モネ「睡蓮」



橋口五葉「化粧の女」



【現状と課題】

- 本市には地域で生まれ、保存・伝承されてきた史跡や伝統芸能などの文化財が数多く存在し、これらを将来世代へ継承するために、文化財の保存と活用を積極的に推進することが必要です。
- 令和元年度に認定された日本遺産の構成文化財をはじめとする貴重な文化財の保護に対して、市民の理解促進を図るために、その魅力発信を積極的に努める必要があります。
- 本市の文化財の所在地や文化財的な価値等について実態把握を行い、その結果を市民に広く周知することで、文化財を大切に作る心を育み、郷土に誇りを持てるような人づくりを図ることが必要です。
- 郷土芸能活動の活性化は、地域の絆を深めるとともに郷土愛の育成にも繋がることから、芸能保存団体の活動を通じて地域住民の理解促進を図る必要があります。
- ふるさと考古歴史館や旧島津氏玉里邸庭園、旧鹿児島紡績所技師館（異人館）については、本市の歴史や文化に対する理解を深める場として貴重な施設であることから、利用者数の増加へ向けた取組を進める必要があります。
- 世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産である「旧集成館」、「寺山炭窯跡」、「関吉の疎水溝」について、その価値を将来世代へ継承していく必要があります。

【これからの施策の方向性】

- 未来に継承すべき貴重な文化財については、補修・整備などの保全に努めるとともに、学習や観光に活用できる場として、広く提供します。
- 本市が行った発掘調査の成果については、学校活動や生涯学習の場として活用できるように資料等を整理し、積極的に公開します。
- 郷土芸能活動がそれぞれの地域で大切に伝承されるために、少子高齢化によって継承や維持が難しい芸能保存団体に対しては、その活動を支援します。
- ふるさと考古歴史館や旧島津氏玉里邸庭園、異人館の利用者数の増加に向けて、施設展示の充実・環境整備を進めます。
- 世界文化遺産の構成資産については、将来世代へ継承するため、適切な管理保全と活用を進めます。

【主な取組】

- 地域で育まれてきた文化財の保存活用の方針については、県が策定する大綱を踏まえながら、本市の文化財保存活用地域計画の作成を行い、市民への周知と理解促進を図ります。
- 冷害によってメヒルギの生育が危ぶまれた国特別天然記念物「喜入のリュウキュウコウガイ産地」に対しては、専門家検討委員会における意見を踏まえながら、メヒルギの再生に向けて環境整備を進めます。
- 日本遺産「薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群『麓』を歩く～」に認定された城山地区、喜入旧麓地区内の構成文化財については、児童生徒の認識や理解を深めるため、副読本を活

用した授業の在り方などについて、教職員へ向けた研修会を開催します。

- 各種開発事業に伴う発掘調査については、現地説明会を開催することで市民の理解や関心を深めるとともに、ふるさと考古歴史館における出土遺物の展示やウェブサイトで調査報告書が閲覧できるように整備を進めます。
- 郷土芸能団体に対して、芸能活動に係る経費や用具補修等への助成など、継続的な経済支援を行うとともに、学校や地域と連携しながら、郷土芸能を披露する機会の拡充を図ります。
- ふるさと考古歴史館については、本市の歴史に対する市民の理解を深めるとともに、文化財の新たな魅力を発信するため、来館者の意見や要望を取り入れながら、特別企画展やイベント内容の充実を図ります。
- 旧島津氏玉里邸庭園については、国名勝としての文化財的価値を維持するため環境整備を進めるとともに、来園者がその価値を体感できるようなイベント等の開催を積極的に行います。
- 世界文化遺産の構成資産については、計画的に資産ごとの適切な管理保全と活用を図ります。

【計画期間における成果指標】

指標名	指標の概要、算式等	参考値	現況値（R2）	目標値（R8）
①市内の文化財の指定等件数	市内に所在する文化財の国指定・県指定・市指定・国登録件数	189件 (H27)	193件	195件
②異人館の年間入館者数	—	12,753人 (R1)	5,404人	33,000人

①の指標を選んだ理由

本市の貴重な文化財について、歴史的な価値の検証や文化財的価値の調査・研究を行い、市、県、国指定または国登録を行うことで、行政保護がより手厚くなることから、事業の成果を表す指標として、市内の文化財の指定等件数を設定した。

②の指標を選んだ理由

世界文化遺産の構成資産の一つである異人館に対して、適切な管理保全と入館者の増加に向けたイベント等の活用を図る必要があるため、事業の成果を表す指標として、異人館の年間入館者数を設定した。